



## 今月の農家さん

### お客様の笑顔が見たくて

守山市立田町  
井入 吉信さん (41才)



ご両親と一緒に花や野菜を育てている井入さん。秋の終わりは、ストックやアリッサム、パンジー、ピオラ、ハボタンなど様々な花の世話で大忙しです。

以前、井入さんは会社員をしながら、農業に携わっていましたが、ご両親が大ききした農園を守ろうと、40才を機に家業を継いで、本格的に栽培技術を学び始めました。

そんな井入さんが、今の仕事にやりがいを感じるのは、直売所や配達先で、お客様から「いつも良い苗をありがとう」「新しい花も期待

しています」と感謝の言葉を貰う時だそうです。「私が育てる花や野菜を待っているとと言われると、生産者冥利に尽きます」と顔をほころばせます。

今後の目標について、井入さんは「農業は、定植や収穫が注目されがちですが、仕事の間ほとんどは作物の手入れです。まだまだ勉強中ですが、どうすればお客様に喜んでいただけるか考え、手入れの仕方を試行錯誤する事が楽しくなれば、一人前なのかなと思います」と話しました。

## 営農情報

平成30年産米の品質低下の要因として、7月中旬以降に高温が続き、稲体が生育を維持するためにデンプンを消費したことで乳白米が増えたこと。そして、収穫期の長雨で刈取りが大幅に遅れ発芽米

品種名	一等比率	
	30年産米	29年産米
コシヒカリ	33.60%	57.17%
キヌヒカリ	26.59%	48.90%
秋の詩	49.02%	64.86%
日本晴	22.66%	35.50%
みずかがみ	78.28%	71.45%

(平成30年11月1日現在)

◆平成30年産米検査結果  
平成30年の当JA全体の米検査結果は、表の通りとなりました。早生品種のみずかがみを除き、昨年より一等比率が大きく下がる結果となっています。

### ◆平成30年産米検査結果



なお、冬期農談会では、これらの対策について詳しく説明させていただきますので、ぜひご参加ください。

- ① 土づくりの徹底
- ② 遅植え
- ③ 疎植と細植え
- ④ 適正施肥(基肥・穂肥等)
- ⑤ 水管理
- (中干し、早期落水防止の徹底)
- ⑥ 適期防除
- ⑦ 適期刈取り

が増えたこと等が考えられます。稲の生育や登熟などは、天候に左右されてしまいますが、引き続き次の対策を総合的に実施して、品質向上を目指しましょう。